

施策番号 4-2-2	施策名 快適な住環境の整備	基本目標	自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり		
		政策名	快適な都市環境づくりの推進		
	主管課	建設都市整備課	課長名	橋本 直樹	内線 440
	施策関係課	住民生活課			

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
快適で安全・安心な公園などの住環境の整備と適正な公共賃貸住宅の供給をすすめます。		町内の住環境	・快適で安全・安心な住環境を町民に提供する				町の人口減少の抑制と、居住者の快適な暮らし
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
① 芽室町の公園に満足している町民の割合	住民意識調査	%	70.8	82.8	95.0	95.0	
② 居住環境に満足している町民の割合	住民意識調査	%	79.2	82.6	95.0	95.0	
③ 公共用地売却地への住宅建設の割合	建設都市整備課調べ	%	68.1	96.7	97.8	90.0	
④							
成果指標設定の考え方		①公園に対する町民の満足度を向上させる施策を講じる必要があることから成果指標に設定し、段階的に向上させ、目標値を目指すもの。 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更) ②居住環境に対する町民の満足度を向上させる施策を講じる必要があることから成果指標に設定し、段階的に向上させ、目標値を目指すもの。(※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更) ③快適で安全・安心な住環境を町民に提供する施策を講じる必要があることから成果指標に設定し、早期に住宅建設を進め、目標値を目指すもの。					

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費(千円)	264,035	258,274
人工数(業務量)	5.3430	4.6794

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①②は前年度より向上 →花菖蒲園の復旧・遊具の更新及び公営住宅改修による居住性向上が主な要因 成果指標③は前年度より向上 →既成市街地区での一戸建て住宅の建設ニーズの増加が主な要因
②2022年度の目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①ピウカ川親水公園の整備及び「公園施設長寿命化計画」に基づく施設の更新等により、目標達成は可能 ②「公営住宅等長寿命化計画」に基づく整備の実施及び耐震改修補助制度(建て替え・解体)の活用により、目標達成が可能 ③既成市街地での子育て世帯を中心とする一戸建て住宅の建設ニーズの増加により、目標達成は可能
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	公園施設等維持管理事業 花菖蒲園維持管理事業 公営住宅維持管理事業 限定特定行政庁事務	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	●「公園施設等長寿命化計画」の推進 →公園の既存施設は、劣化状況等に合わせ計画的に修繕及び更新を進めている。 ●花菖蒲園の復旧 →平成28年の台風で大幅に菖蒲が消滅したが、平成29年度から3か年で復旧した。 ●公営住宅の適正な管理 →低所得者への公営住宅の賃貸を維持継続し、必要な修繕を適正に実施することにより、快適な住環境を提供している。 ●老朽空き家対策 →無料耐震診断の実施し、建て替えや解体の補助制度の活用が図られた。また、危険家屋の所有者に対しては指導、助言を行った。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
		○			

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公営住宅入居希望者の居住環境に対する要望が従前より高く、多様性が増している。 <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園施設が経年劣化していることから、安全安心な憩いの場やコミュニティの場を提供するため、計画的な公園施設の点検による維持管理を進める必要がある。 ・「公営住宅等長寿化計画」に基づき、ストックの効率的・効果的維持管理の推進を図る。 ・老朽空き家に対する相談件数が増加する。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・公営住宅については、役割や必要性を整理し、整備を進めてほしい。 ・花菖蒲園の再開は町民も期待しているので、計画どおり復旧に向け進めてほしい。 ・ピウカ川親水公園の実施設設計時から完成後の維持管理やライニングコストを考慮し、住民や各団体と関係を築き、協同で進めていく方向を考えてほしい。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ●公園施設等の老朽化対策(公園施設等維持管理事業、花菖蒲園維持管理事業) 既存施設は、経年劣化が進んでいることから、「公園施設長寿化計画」に基づき適切な維持管理と施設の更新を図る。 ●少子高齢化対策(住生活基本計画策定・推進事務) 少子高齢化に対応した住環境づくり、住宅の安全性と快適性を確保、空き家などの住宅ストックの流通を促進する。 ●老朽化した公営住宅の整備(公営住宅維持管理事業) 「公営住宅等長寿化計画」に基づき、適正な管理戸数及びトータルコストの削減を図る。また、高齢者、障がい者など、多様な人々に快適な住環境の整備を促進する。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	成果指標は策定時に比べ上昇しており、花菖蒲園の復旧や、既存公園施設の修繕及び更新を計画的に行っていることから、大きく前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果		○		
今後の取組に対する意見	人口減少が進む中で、公園の統廃合についても検討する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した 				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	計画的に事業が進められていることから、策定時と比較して大きく前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果		○		
今後の取組に対する意見	継続して事業を進めてもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した 				